



# 酒匂の清流

令和4年9月16日(金)発行

校長 津田 将美

## 遊びから生まれる学び 再び

1年生の生活科に「つちやみずであそぼう」という学習があります。生活科の「あそび」の中には「遊びや遊びに使うものを工夫すること」や「遊びや自然のおもしろさや不思議さに気づくこと」、「仲間と楽しみながら遊びを創り出すこと」などのねらいがあります。

松田幼稚園では、「遊び＝学び」ととらえ、「遊び」から「学び」を得る活動に特に力を入れてくださっていて（さくら保育園をはじめとする他の保育園も同様だと思います）、友達と協力し、試し、失敗し、考え直しながら自由に遊んでいるうちに、生きていくために必要なさまざまな力を心と体で吸収しながら成長してきています。

小学校では、幼児教育の中で培われたこの遊びから学びを生み出す姿勢を大切に引き継ぎ、更に育てる学習を続けています。

…と、ここまでは昨年の学校だより第9号とほぼ同じ書き出しとなりました。今回また、1年生のこの授業に参加させてもらって、全く同じ感動、感想を持つことができました。それをお伝えすると、昨年とほぼ同じ学校だより第9号になってしまいますので、この学校だよりと共に昨年度のものも学校のホームページにアップしておきますので、是非ご一読ください。

今回は、少し視点を変えてみたいと思います。右の4コマや後述の長靴の件も含めて、子どもたちが単に水のかけあいを楽しむだけではなく、遊びや自然のおもしろさに気づき、仲間と楽しみながら遊びを広げていった過程は、昨年と変わらないものでした。そして、それは幼稚園や保育園での日々の活動が何年も積み上げられ継続され、小学校につながってきている証拠だと思うのです。子どもたちの学ぶ素地がこういう形で育ち、つながってきていることをありがたく思います。

何ととっても、私自身が本当に楽しむことができましたから…。

しかし、継続には地道な努力が必要です。特に今年度は新校舎の完成はありましたが、グラウンドも昨年度使用したピロティーもありません。しかし担任は、学びの継続を求め、誠意と熱意をもって準備を進めてくれました。

朝早くから、大きなたらいをたくさん用意し、家庭からビニールプールまで持ってきて、子どもたちの「水遊び」が伸び伸びできるための環境を作ってくれました。それを河川敷グラウンドま

令和3年度 松田町立松田小学校 学校だより 第9号  
酒匂の清流  
令和3年9月15日(水)発行 校長 津田 将美

遊びから生まれる学び

1年生の生活科に「つちやみずであそぼう」という学習があります。学校だより第6号で紹介した「雨にあそぼう」でもそうでしたが、生活科の「あそび」の中には「遊びや遊びに使うものを工夫すること」や「遊びや自然のおもしろさや不思議さに気づくこと」、「仲間と楽しみながら遊びを創り出すこと」などのねらいがあります。

松田幼稚園では、「遊び＝学び」ととらえ、「遊び」から「学び」を得る活動に特に力を入れてくださっていて（さくら保育園をはじめとする他の保育園も同様だと思います）、友達と協力し、試し、失敗し、考え直しながら自由に遊んでいるうちに、生きていくために必要なさまざまな力を心と体で吸収しながら成長してきています。

小学校では、幼児教育の中で培われたこの遊びから学びを生み出す姿勢を大切に引き継ぎ、更に育てる学習を続けています。

今回この「つちやみずであそぼう」の授業に参加させてもらいました。遊ぶ道具は水鉄砲です。子どもたちは自分たちで用意した面白い水鉄砲をうれしそうに抱え、濡れてもいい服装になって遊んでいました。むららに雨が降ると、いよいよ水鉄砲遊びです。子どもたちは、最初はどうしたら濡らさず飛ばせるのか、どうしたらぬれずに飛ばせるのかを考えたまま活動していました。「友達の手から上はかけない」というルールもしっかりと守りながらも、本当に楽しんでいる様子が見られました。

「校長先生、飛んでくれないの？」  
「うわあ、本当だ！」  
「ジャンプしてみよう！」  
私がジャンプをすると、水が長靴の隙間から勢いよくジャンプと飛び出します。  
「うわあ、おもしろい！！みんなでもっと入れよう！！」  
これから、子どもたちの工夫と協力が始まりました。何度もジャンプさせられた後、長靴を脱いでほしいという要望に応える子どもたちは、  
「これなら、もっと入るよ。」  
「たくさん入れよう、もっと入れてきて！！」  
みるみるうちに長靴にたっぷり水を見て大喜び。今度は、長靴の履き口にある紐を結んで、水ポンペのように持ち上げました。

### あそびの創造 再び

「水のほきを…」  
「Iy?」  
「ちょっとおしりはやめて…」  
「おしり、オナジ…」  
「わあ！」  
「おしりからおしりはやめて！」

で運ぶとそこはもう、夢いっぱいの遊びのステージです。ひろ～いグラウンドで力いっぱい、元気いっぱいに活動することができました。

松田小学校の学びの「継続」は、子どもたちの意欲と、このような職員の熱意と努力によって支えられています。そして、その結果がこの日のような子どもたちの達成感にあふれる笑顔なのです。

昨年度と同様、最後はやっぱり長靴に目がいくんですね。じゃぶじゃぶと私の長靴から上がる水しぶきが、遊びの開拓心に火をつけるらしく、たくさんの子がジャバジャバと水を入れてくれました。

「ああ、楽しかった。」

活動を終了した子どもたちから、そんな感想がたくさん聞かれました。

ただ与えられたものだけを行うのではなく、自分たちで工夫し創造した遊びを満喫した子どもたちの笑顔も昨年度と変わらず、とても輝いていました。



## SDGsの取り組み

9月6日、長屋休みに河川敷に集まった6年生の手には、ゴミ袋とトングがありました。長屋休みから、5、6時間目にかけて地域のごみ拾いを行うのです。

実は昨年度、5年生の頃から願い続けてきた活動で、正に総合的な学習の時間における2年越しの探究的な活動となりました。河川敷グラウンドのごみを拾った後はクラスごとに地域を回り、松田町の環境美化に努めました。

松田小学校でも総合的な学習の時間を中心にSDGsを学んでいます。このような持続可能な社会をめざす取り組みは、正にSDGsの理念そのものだと感じました。

### SDGs 11 住み続けられるまちづくりを

なかなかなくならないポイ捨てごみ。みんなが安心して快適に暮らせる松田町を守るために、小さな一歩でも、続けていくことを大切にしていきたいです。






### SDGs 12 つくる責任 つかう責任

ごみをただ放置したままにせず、拾ってリサイクル処理をすることで、「つくる責任つかう責任」を自覚していけるように努めます。



## 本当の強さとは…の続き

「校長先生、横断歩道でイライラしないでね。」朝の通学路で、ある子からそう声をかけられました。始業式の話覚えてくれていたんだな…、とうれしくなりました。実は、前号で話題にした「本当の強さ」についての話には、   続きあったのです。

「松田警察署の横断歩道で、5～6年生くらいの男の子がいて、私は停車しました。すると、その子は、反対はバスでしたが、両方向の運転手、それぞれに向かって、おじぎをして横断歩道を渡っていきました。会釈程度でも感動なのに、両方向におじぎをするって、すごくないですか！！バスの運転手さんも、クラクション鳴らして、逆にお礼をしていました。暗いニュースが続く中、朝から超超超ハッピーでした。とくかく、誰かに伝えたくて…」これは、知り合いの中学校の校長先生のもとに、その教え子から届いたメール文です。

連絡をもらった時に、始業式で話をしようとしていた「本当の強さ」の話とつながりました。私は横断歩道で止まってくれない車にイライラしてしまう自分と、しっかりと止まってくれるのを待って、心をこめてお礼を言うその子では、車に止まってもらうにはどちらがいいのか、どちらが本当の強さをもっているのか、ということを考え反省し、子どもたちに伝えました。

「思いやりの心を持ち、相手を理解すること」は、私たち大人よりも子どもたちの方が、素直な心で近づいていけるのかもしれない。

もう、イライラいたしません。

